

【別紙】令和5年度社会課題テーマの概要

テーマ		提案内容	担当課・係
A	高齢者が支えあうデジタルデバイス対策	<p>【提案の背景】 国は人口減少、少子高齢化といった社会動向において社会生活を持続可能なものとするためデジタル革新、イノベーションを最大限活用して実現するSociety5.0を未来社会のコンセプトとしている。コロナ禍で一気にデジタル化の波が広まり、DX(デジタルトランスフォーメーション)と称し、社会生活の多くの場面でデジタル化が進んでいる。</p> <p>【現状の課題】 令和3年世論調査では、60歳代の25.7%、70歳代以上の57.8%がスマートフォン等を利用してきていない結果が出ている。高齢者のデジタル活用が進まないことで、デジタル社会から取り残される可能性がある。令和4年度、市内で開催したスマホ講座や相談会の多くが定員を上回る申込みがあり、関心の高さがうかがえた。</p> <p>【目指す姿】 (1st step)ICTに興味・関心がある地域の高齢者らを発掘する。 (2nd step)発掘した人に向けて、スマホ講座や相談会を開催し、デジタルに明るいサポーターを育成する。 (3rd step)サポーターが地域の高齢者のデジタル先生になれるように、講座や寄り合いのやり方やはじめ方をアドバイスする。 地域の高齢者同士が支えあい、誰もがデジタル社会の恩恵を受けられるようになることを目指す。</p>	情報政策課・DX推進係
B	国籍の隔てなく市民が集まる環境づくり	<p>【提案の背景】 外国人住民の増加、多国籍化を受け、国では「地域における多文化共生推進プラン」を策定し、市民が国籍の隔てなく豊かに暮らせる社会づくりを目指すこととしている。瀬戸市においても定住化する外国人住民が増加しており、瀬戸市国際センターを中心に、多文化共生の取組みを推進している。</p> <p>【現状の課題】 ・言語の壁等により外国人住民が情報弱者となり、暮らしのために必要な情報を得られないことで、適切なサービスを受けられていない可能性がある。また、そのような外国人住民の存在を、行政や地域が把握しきれていない現状がある。(例:外国人住民の子育て支援、高齢者支援) ・外国人住民のまちづくりへの関わりが少ないため、日本人住民と外国人住民のコミュニケーション不足が生じ、双方にとって魅力的なまちづくりができていない。(例:防災活動)</p> <p>【目指す姿】 ・日本人住民と外国人住民が集える「場所」づくりや、住民間をつなぐ「キーパーソン」の参画により、支援が必要な外国人住民の把握や適切な支援を進め、日本人住民と外国人住民の交流によるまちづくりを実現する。</p>	まちづくり協働課・協働第3係
C	地域住民が安心してごみを出せる環境づくり	<p>【背景・課題】 ・ごみ処理費用有料化制度を令和5年9月1日から開始するにあたり、ごみの出し方が大きく変わることとなる。 ・有料化に関する地域の説明会においては、多様な文化背景をもつ住民が増加する中で、住民のごみ出しマナー、特に分別が守られておらず、この状況で有料化を推進することが不安だという声が多く上がっている。</p> <p>・環境課では、「ごみ・資源物の出し方」をはじめとする啓発チラシにより多言語で周知を図っているが、効果的に配布することができないという課題がある。特に、文化が異なる外国籍住民の方に対し、啓発物だけで分別の理解を深めてもらうことには限界がある。</p> <p>【目指す姿】 ・新しいごみの出し方について、国籍を問わず一人でも多くの住民に理解してもらい、地域住民全員が安心してごみを出せる環境を作る。 ・資源の分別を促進することで資源化率を上げる。</p>	環境課・ごみ減量係
D	地域のつながりを活かした空き家対策	<p>【背景】 瀬戸市では「瀬戸市空家等対策計画～せとで住もまいプロジェクト～」を策定(平成28年4月当初策定、令和3年4月改定)し、空家等対策を進めており、老朽空家等解体補助金や空き家情報バンクの活用により、空家率が減少する等一定の成果をあげている。</p> <p>【課題】 一方で、市役所の担当部署による空家の確知は地域住民からの通報に頼るところが大きく、市役所単独での調査では、とある物件が空家であるか否かを判断することすら難しいのが現状であり、地域住民との連携により空き家対策を進める必要がある。</p> <p>【目指す姿】 ・市民活動団体や、地域の空き家情報に詳しい地域団体等と連携しながら、空き家の適正な管理や活用方法について、新たなアイデアで、空き家率減少に向け取り組む。 ・特に、空き家所有者が遠方に居住する場合等、空き家の管理や活用が困難な場合の対策に取り組み、空き家とならないような意識づくりを進める。 ・空き家情報バンクをより有効に活用する等しながら、瀬戸市での定住促進につなげる。</p>	都市計画課・建築指導係
E	みんなでまもり、つかい、はぐくむ公園づくり	<p>【背景】 ・市内には、子どもから高齢者までの様々な人々の遊びや憩い、ふれあいの場となる公園が250箇所ある。 ・そのうち183箇所のちびっこ広場は、地域の住民の協力(地域清掃による草刈りや清掃など)により環境が保たれている。 ・一方で、地域活動の取組状況や公園の利用状況などの違いにより、公園の管理や使い方に差が生じている。 ・中には、少子高齢化により地域では手入れができないなど、地域の負担となっている状況もある。 ・市民へのアンケート調査においては、7割以上の市民が「行政・市民・民間企業などが連携した公園等の美化・愛護活動が必要」という思いがある。</p> <p>【課題】 ・さまざまな主体の協働による公園管理の取組みをいかに構築していけるか。 ・子どもを遊ばせる場、さらには子育ての取組みの場として、いかに公園を活用していけるか。 ・市民の思いを行動につなぎ、公園へ携わる人をいかに育み、次世代へつなげていけるか。</p> <p>【目指す姿】 協働により・・・ 子育て世代をはじめ地域の様々な人が公園へ愛着を持ち、関わり、公園をフィールドとした環境・文化・運動などの魅力ある取組みが行われ、安心して過ごせる公園が身近にあるまち。</p>	建設課・公園緑地係